図書館だより SAKU らいぶ

作新学院大学　令和６年６月号

作新学院大学女子短期大学部 図書館

112

「ネットは広大だわ･･･」

作新学院大学　経営学部 経営学科　　森 亮太

タイトルは 1991 年に公開された、士郎正宗氏による SF 作品『攻殻機動隊』に登場する草薙素子の有名な台詞である。『攻殻機動隊』は、企業ネットが星を覆う世界で、身体を機械化したサイボーグ達が大立ち回りをする、2028 年の未来を描いた作品だ。当事中学生だった私はこの作品に魅せられた。何より世界中の情報がネットに繋がり、リアルタイムにアクセスされる世界に度肝を抜かれたものだ。作中では、ネットは無限の深さを持つ広大なシステムと紹介され、まるで人類を高次元へと進化させる神の様な存在を示唆しているようにも思えたものである。これから凄い時代がくるぞ。当事の私は未来に胸をときめかせたものである。

さて、士郎正宗氏が描いた 2028 年まで後 4 年となった。どうやら自身が人間なのか悩むサイボーグはまだ登場していないようであるが、この星を覆うネットについては、氏の描いた通りか、かなり近いものへとなっているのではなかろうか。このネットの生成過程を体験してきた私であるが、面白いことに素子と異なる感想を抱いている。

「ネットは窮屈だな･･･」

その理由は 3 つある。1 つは、ネットはデジタルデータの送受信が基本となるが、そこには、存在するものしか存在しないのである。つまり、デジタルデータとならない限り送信も受信もされないので、思いも寄らぬものや、これまで識別できていなかったものは、入力ないし生成されるまでまるっきり存在しない。ネットはデフォルメされた世界が広がっているに過ぎないのである。

2 つめは、情報を得るために検索しなければならないことだ。自分で検索し、その答えを得る、この検索はちっぽけな 1 個人である自分の中から産み出される。一覧で情報を表示したり、自分向けの情報を提供してくれたりするアルゴリズムも存在するが、膨大な情報の海であるネットのほんの断片を見せられているに過ぎず、所詮は外的な力で窮屈な枠に押し込まれているだけのように感じるのである。なんなら強制的に見せられる広告なんてものまである始末だ。

3 つめは実に深刻だ。現代はネットを介した SNS 社会とも言われるが、この SNS にはブロックやミュートという、見たくないものを見ないようにできる便利な機能が備わっている。これらの機能には利点もあるが、私はこの機能に藤子不二雄氏の『ドラえもん』に登場する秘密道具「どくさいスイッチ」を重ねる。

「どくさいスイッチ」とは、気に入らない人間を消滅させる、恐ろしい秘密道具である。作中ではのび太はこの道具の使用を悔いるのであるが、どうやら SNS のブロックやミュートは、使用者に悔恨をもたらさず、実に居心地の良い空間を提供しているようである。この居心地の良い空間、自分にとって都合の良い空間とは恐ろしい程に閉鎖的に思える訳だが、ついつい押したくなるスイッチである。そしていつしか我々は自身を窮屈な世界に閉じこめてしまう。

さて、このような窮屈さを感じてかはわからないが、世間ではネット（というよりデジタルかもしれない）には無いものを求める動きも見られる。一部の音楽ファンの間ではアナログレコードが人気で、随分と売れているらしい。コロナ禍が明けてからは観光客の往来が以前にも増して賑やかになったという話も聞く。旅行はネットやデジタル空間では得られない体験の最たるものであろう。

ネットは確かに広大だ。無限の可能性があるのは否定しない。しかし、所詮は人間の使う道具に過ぎず、我々人類を高次元に導いてくれる概念ではどうやらなさそうだ。我々人類の進歩はやはり己が足で歩かねばならないということだろう。だから歩くためにネットに依存する必要もないと思う。ネットやデジタルデバイスと距離を置けというつもりは毛頭無いが、アナログな体験にだって無限の可能性があることは否定できないし、アナログな体験だからこそ得られるものも多いはずだ。

アナログな体験の話になって、ここでようやく図書館の話になる。言いたいことはお決まりの台詞で、お察しの通りだが、あえて言おう。

「そうだ、図書館へ行こう。」

図書館での読書は実にアナログな体験だ。本に書かれた情報の入手のみが図書館での体験ではない。本との出会い、差し込む光、紙の本の手触りや匂い、静かな館内と少し弱い空調、その全てが図書館での読書の体験なのだ。こんなものはネットに潜っても絶対に手に入らない。我々は本能的にそれを知っているはずである。さあ、図書館へ行こう。きっとかけがえのない体験が君を待っている。何を読んでいいのかわからなかったら大学の先生に聞くと良い。大学の先生はだいたい本の虫だ。きっとおすすめの一冊を紹介してくれるだろう。とてもマニアックな一冊をね。

短期大学部が開催する「わいわいひろば」では図書館内の「キッズ・スペース」を使って、学生が絵本の読み聞かせをしたり、手遊びを行ったりしています。

毎回多数の親子の参加があります。

保育者を目指す学生たちは、日ごろの学習の成果を発揮し、いきいきと子どもに接していました。

6月開館カレンダー

午前９：00～午後１：30

午前９：00～午後６：00

休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館
TEL：028-670-3652　FAX：028-670-3619
E-mall ：tosyo@sakushin-u.ac.jp
URL：https：//www.sakushin-u.ac.jp/library/